

4. まとめ

簡易 Dvorak 法による T 数の変化が、衰弱期のみならず、発達期においても、中心気圧の変化に先行して現れるということが、台風8305の場合に示された。このことが、一般的な事実であれば、Dvorak 法において、衰弱時のみならず発達時においても、中心気圧の変化に対する T 数の変化の先行性を考慮しなければならない。また、デジタル赤外データから簡単に計算される T 数は、台風の急速な発達や衰弱の短時間予報の手掛かりになる。今後、他の台風についても調査をつづける必要があらう。

謝 辞

本報告を作成するにあたり、気象衛星センターの樋間道夫解析課長をはじめ、課員諸氏、および、台風業務実験の国際実験センター所員諸氏から貴重な御意見を頂き

ました。ここに厚く感謝いたします。

文 献

Dvorak, V., 1982: Tropical cyclone intensity analysis and forecasting from satellite visible or enhanced infra-red imagery, Report on the WMO seminar on the application of satellite data to tropical cyclone forecasting, Bangkok, Thailand, 24 May-4 June 1982.

Rosenthal, S., 1978: Numerical simulation of tropical cyclone development with latent heat release by the resolvable scales I; Model description and preliminary results, J. Atmos. Sci., **35**, 258-271.

島田健司・内田雅夫, 1982: GMS によって測定された等価黒体温度 (T_{BB}) を利用した台風の強さの予測 (I), 気象衛星センター技術報告第6号, 1-10.

NEWS

最近、農業・産業界等各方面で異常気象についての関心が高まっています。そこで「天気」編集委員会では、昭和59年の新企画として、世界の異常気象について最新ニュースをお届けすることにいたしました。学会員の皆さんの何かのお役にたてばと思います。なお、これはアメリカの NOAA で月2回発行している「Climate Impact Assessment, Foreign Countries」の邦訳で、気象庁気候変動対策室の御協力をいただいています。

世界の異常天候とその影響評価 (1)

(Climate Impact Assessment, November 27 - December 10, 1983)

1. 合衆国南東部——大雨・洪水

12月の第1週にルイジアナ、ミシシッピ、アラバマ、ジョージアで発生した洪水のため、1,200人以上の住民が家を捨てて避難した。

被害は昨冬から春にかけてこの地方を襲った洪水よりは軽かった。しかし、12月6日に生じたトルネードのた

め、アラバマ州セルマでは15人が負傷し、ルイジアナ州ラプラスでは24人が負傷した。

雨が最も激しく降ったのはミシシッピ州の北部で、特にグリーンウッドでは11月13日から12月3日までの間に約400mmの雨が降った。

2. 東ヨーロッパ——早ばつ

東ヨーロッパでは11月27日から12月3日にかけて暴風雨のため25~75mmの雨が降った。このため早ばつは緩和され、水供給の状況と冬小麦の見込みも良くなった。しかし、過去3~4カ月の総降水量は平年の約60%にすぎず、水不足が解消されるためには、さらに数週間以上にわたって多量の雨や雪が降る必要がある。早ばつは西方に拡大しており、イタリア北部も含まれるようになった。

(注: 上記各項目の番号は図中の番号に対応している。)

(気象庁気候変動対策室 真野裕三)

